

第15回 化学人材育成プログラム 申請案内

○ 次の1、2について別添ファイルにご記入下さい。(添付資料を含め最大10頁以内)

1. 博士人材育成の取組について

貴専攻の「人材育成の概要」に続き、そのために「現在行っている取組」「その成果(効果)」「課題と今後の取組」を、下記の「産業界の求める博士人材像」ごとに、具体的に、また**頻度、規模、成果等**を含め**極力定量的**に記載して下さい。

<産業界の求める博士人材像>

- (1) 特定分野に関する深い専門性に加え幅広い基礎的な学力を持つ人材。産業界で役立つ基本知識(知的財産、データサイエンス、安全等)を習得できている人材
- (2) 課題設定能力に優れ、解決のために仮説を立てて実行できる、マネジメント能力を持った人材
- (3) リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材
- (4) グローバルな感覚を持った人材

2. 実績

過去5年間の代表的な博士後期課程学生の研究実績について、記載して下さい。

○ 参考項目として、以下についても書式(別添ファイル5、6枚目ご参照)に従い記入してください。

- ・過去5年間の博士後期課程修了者の化学系企業への就職実績
- ・既に当プログラムの奨学金給付対象専攻となられている場合は、奨学生の化学人材育成プログラム協議会会員企業への就職実績

○ 申請書の記載に伴い、他の文献や調査報告書等の内容を引用する場合には、出典を明示してください。また必要に応じ、参考資料を添付(申請書同様に大学名と専攻名がわかるように)してください。

○ 書類提出は別添ファイルに記載例を参照して作成していただき、E-mailにてご送付願います(別途郵送の必要はございません)。

件名及び添付ファイル名は「**第15回申請書(〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻)**」として、大学(院)名、研究科名、専攻名がわかるようにお願いします。また、申請用ファイルはPDFファイルに変換してお送りください。

宛先: 化学人材育成プログラム協議会 事務局(日本化学工業協会 技術部)

E-mail : jinzai_ikusei@jcia-net.or.jp

なお、支援対象専攻に対しては、支援継続の妥当性を確認するため、年1回程度書面等により申請書に記載した博士人材育成の取組み状況について報告を求めることがありますので、その旨申し添えます。

2024年 月 日

一般社団法人日本化学工業協会
化学人材育成プログラム協議会
会長 岩田 圭一 殿

ヘッダーに大学名、専攻
名を記載してください。

〇〇大学大学院
〇〇研究科〇〇専攻
住 所 (〒)

代表者名

押印は不要です

第15回「化学人材育成プログラム」への応募について

化学人材育成プログラムについて、別添の様式通り応募します。

連絡先：

ご担当者名

所属・役職

電話

E-Mail

1. 博士人材育成の取組について

◆ 専攻における人材育成概要

(1. 博士人材育成の取組みに記載した<産業界の求める博士人材像> (1) ~ (4) を前提に、貴専攻としての人材育成の方針、特徴的な取り組み、また学生への効果、課題とそれに対する取組み等の概要を記述してください。)

青字の内容に留意して記載してください (以下同様)。

「現在行っている取組」「その成果(効果)」「課題と今後の取組」を、具体的に、また**頻度、規模、成果等**を含め**極力定量的**に記載して下さい。(以下同様)

| | |
|---|--|
| (1) 特定分野に関する深い専門性に加え、幅広い基礎的な学力を持つ人材 (T型やπ型人材) | |
| 1) カリキュラム上の取組・成果 | (講義、企業研修等、カリキュラム上の取組において、自身の専門以外の分野に触れる機会をどのように設けているか。また、専門外も含めた幅広い基礎的な学力を身に付けさせるために、どのような指導を行っているか。現在及び今後の取組みの中で、特徴的な取組みを中心に記載してください) |
| | (成果・効果) |
| 2) カリキュラム外における他の分野に触れる機会についての取組・成果 | (講演やセミナー参加、学内または学外交流など、カリキュラム外で専門外の分野に触れる機会をどのように設けているか。また、そのような機会に際し、どのような指導を行っているか。現在及び今後の取組みの中で、特徴的な取組みを中心に記載してください) |
| | (成果・効果) |
| 3) 産業界で役立つ知識、技能の取得についての取組・成果 | (知的財産、事業化に際してのコスト算出、データサイエンス、化学品の安全管理等、企業で役に立つような知識、技能の習得機会を設けているか。その他、独自の取組みがあれば記載してください) |
| | (成果・効果) |
| (2) 課題設定能力に優れ、解決のために仮説を立てて実行できる、マネジメント能力を持った人材 | |
| 1) 研究計画の自主性について行っている取組・成果 | (テーマの選定及び研究計画の策定について、どの程度学生に任せているか。また、良質なテーマを自ら見いだす能力を付与するためにどのような指導を行っているか。等) |
| | (成果・効果) |
| 2) 課題の解決力について行っている取組・成果 | (課題解決に向けて、研究計画の見直しをどのように指導しているか。また、その実行に際して、計画のマネジメント力をどのように養っているか。) |
| | (成果・効果) |

| | |
|---|--|
| (3) リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材 | |
| 1) 研究室での下級生の指導等について行っている取組・成果 | (下級生に対する技術指導やチームで課題を解決する際の調整力のような能力を伸ばす取り組みはあるか。また、そのような取組みの中で、リーダーシップを付与するためにどのような指導を行っているか。等) |
| | (成果・効果) |
| 2) 研究室外での活動への参加について行っている取組・成果 | (企業や他分野の研究者との共同研究等の機会に際し、学生をどのように参画させているか。また、このような機会を通じて、リーダーシップやコミュニケーション能力を高めるためにどのような指導を行っているか。等) |
| | (成果・効果) |
| (4) グローバルな感覚を持った人材 | |
| 1) 海外での学会発表などについて行っている取組・成果 | (海外での学会発表、研修、短期留学等の機会をどの程度設けているか。また、こうした機会を通じてグローバルな感覚を付与するためにどのような指導を行っているか。等) |
| | (成果・効果) |
| 2) 専攻内外の外国人研究員・留学生との交流の機会について行っている取組・成果 | (外国人研究員・留学生との交流の機会をどの程度設けているか。また、こうした機会を通じてグローバルな感覚を付与するためにどのような指導を行っているか。等) |
| | (成果・効果) |
| 3) 英語教育について行っている取組・成果 | (講義発表等で英語を使用する機会や、英語力に係る研修受講等の機会をどの程度設けているか。また、こうした機会を通じて英語でのコミュニケーション能力を高めるためにどのような指導を行っているか。等) |
| | (成果・効果) |

[参考項目]

博士後期課程修了者の進路状況(過去5年)

| 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 | 2024 年度 (予定) | 計 |
|----------|---------|---------|---------|---------|-----------------|-----|
| 全修了者数*1) | () | () | () | () | () | () |
| 就職者*2) | () | () | () | () | () | () |
| アカデミア | () | () | () | () | () | () |
| ポスドク | () | () | () | () | () | () |
| その他 | () | () | () | () | () | () |

*1:留学生については、内数として()内に記載してください。

*2:就職者については、具体的な企業名を下の欄に必ず記載してください。

| | |
|---------------------------|--|
| 2020 年度 修了者 就職先 | |
| 2021 年度 修了者 就職先 | |
| 2022 年度 修了者 就職先 | |
| 2023 年度 修了者 就職先 | |
| 2024 年度 修了(予定)者 就職先 | |
| 備考 | |

※ 当プログラムの奨学金受給者の就職先には、アンダーラインを付けてください。

(現在 または 過去、奨学金給付対象専攻の場合)

※ 社会人博士後期課程は含みません。

(3) 今年度(2024 年度)における博士前期課程(M1,M2)、博士後期課程(D1,D2,D3)在籍者数

| | M1 | M2 | D1 | D2 | D3 |
|----|----|----|----|----|----|
| 人数 | | | | | |